英米言語文化講読Ⅰa 発表ハンドアウト 発表者：〇〇　　発表日：2021 年 7 月 12 日

ネオ・ブラクスプロイテーション映画『ハッスル＆フロウ』（*Hustle＆Flow, 2005*）に見る現実味のあるバック

ネオ・ブラクスプロイテーション映画とは

1980 年代に入ってはやり始めた映画ジャンルで「新しいブラクスプロイテーション映画」と言う意味である。ブラクスプロイテーションとは、犯罪社会で活躍するバック的黒人主人公を描くアクション映画で、1970 年代に流行った。

ネオ・ブラクスプロイテーションの特徴として、娯楽作品からシリアスなものまでバラエティに富むこと、主人公はバック的ではあるが、かつてのブラクスプロイテーションに登場したような「無敵のアンチ・ヒーロー」ではないこと（逮捕されて終わったり、かっこ悪い面があったりする）、そしてストーリーに「ひねり」があることが挙げられる。

ネオ・ブラクスプロイテーションには、ラップ、とくにギャングスタと呼ばれるジャンルのスター歌手を起用したものもある。『ハッスル＆フロウ』では大物ラッパーのスキニー役を本物のラッパーが演じている。

主人公 D ジェイ：現実味のあるバックとは

D ジェイは、ラッパーのスキニーを殴ってけがをさせてしまい、あっさりと逮捕されてしまう。そのうえ逮捕後は、本来バック的人物の天敵であるはずの警官と親しくなる。「主人公は犯罪行為をしてもきっとうまく逃げ切るし、オマワリなんか当然、ぶっ飛ばすにちがいない」（赤尾、140 ページ）と思っている観客を裏切るツイスト・エンディング（ひねった結末）である。

D ジェイは、かつてのブラクスプロイテーション映画のバック的主人公（ひとりで犯罪社会を生き抜くパワフルな黒人アンチヒーロー）ではなく、犯罪行為を犯し、警察に逮捕され、刑務所でその後人生に希望を見出すという、現実味のあるバックである。

注目する場面：逮捕されるバック的主人公（1 時間 37 分 05 秒―1 時間 43 分 16 秒）

D ジェイは、仲間と作ったオリジナル曲のデモ・テープ（カセット）をスキニーに「プロ・デビューしたいので是非聞いてほしい」と言って渡す。しかし、そのあとトイレの中にカセットが捨てられているのを発見した D ジェイは、怒りがこみ上げスキニーを殴る。そこにスキニーの仲間が現れ、D ジェイはスキニーから奪った銃を放つ。その場を離れた D ジェイが車で家に帰ると、待ち構えていた警察によって逮捕されてしまう。ネオ・ブラクスプロイテーションの主人公は、無敵のヒーローではないことが分かる場面である。

注目するセリフ：「逮捕されたら人生終わり」ではないことが示唆される

Ｄ ジェイは逮捕され、刑務所に収監される。収監中に、スキニーに捨てられたデモテープは仲間の手によってラジオ局に持ち込まれ、大ヒットしていく。

ある日、黒人警官二人がＤジェイに話しかけてくる。彼らは警官でもあるが趣味で音楽をやっていて、大ヒット曲を作ったＤジェイを尊敬していると言うのである。警官二人は、自分たちのオリジナル曲のデモテープをＤジェイに聞いてみてほしいと言う。これを聞いたＤジェイは微笑んで決め台詞を言う。

（1 時間 50 分 36 秒―1 時間 50 分 50 秒）

Well, you know what they say.　Everybody gotta have a dream.

うん、そうだね、君らも分かってるよな。人間だれでも夢を持たなきゃな。

夢を持てば明るい未来がやってくるかもしれない、という前向きさがにじみ出るセリフである。逮捕されて人生が終わるわけではなく、そこから新たな仲間を得て新たな道が見えてくる予感にあふれる、ツイスト・エンディングである。

参考文献

赤尾千波著『アメリカ映画に見る黒人ステレオタイプ『国民の創生』から『アバター』まで』（富山大学出版会、2015 年）